

参議院経済産業委員会(ダイバーシティ) 2020年3月10日

○安達澄君 無所属の安達澄です。

話はちょっとがらっと変わるんですけども、おととい三月八日は国際女性デーでした。そして、経済産業省が企業に対して今進めていますダイバーシティ一、主に女性活躍について今日は大臣に質問させていただきたいと思います。細かな話というよりも、大臣の基本的なお考え、スタンスについてお聞きできればと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

平成が終わって令和になってそろそろ一年がたちます。この三十年間の間に、日本の経済、産業というのは、世界的に見るとやはりかなり競争力が落ちてしまったのかなというふうに思っております。そのことについてはデータが証明しています。

まず一つは、GDPですね。世界のGDPが約四倍大きくなっているところで、この三十年間の間、中国の約三十倍というのはちょっと別格として、アメリカは三・六倍、ドイツが三・二倍。そういう中で、日本は一・六倍という数字であります。そして、一人当たりGDPで見ても、三十年前は第四位だった日本が今では二十六位にまで落ちてしまっている。

そして、もう一つ、象徴的な数字でよく言われますけれども、企業の時価総額

ランキング、これも、平成元年、一九八九年ですけれども、トップ五十、世界上位五十位の中の三十二を日本の企業が占めていたわけですから、そしてトップファイブを独占していたわけですから、平成最後の二〇一九年にはそれが僅か一社というふうになってしまっています。

そこで、梶山大臣、大臣は御自身のホームページの中の政策理念の中で、今考えていることとしてこのようにおっしゃっています。

今、戦後我が国の発展を支えてきた様々な社会システムが、それらがよって立つ基盤から大きく変化しています。その変化を率直に受け止め、これまでの常識にとらわれることなく、全ての仕組みをその根本に立ち返って点検することによって、残すべきものは残し、改めるべきものは勇気を持って変えていく、そこから新しい日本が築き上げられるものと考えますとおっしゃっています。

ここで、お聞きします。国のかじ取りを担う大臣として、その改めるべきものは何だとお考えでしょうか。

○国務大臣（梶山弘志君） 今までずっと、高度経済成長期にできてきた制度や法律もあるわけですから、もうそれらが基盤となる時代は終わってしまったものもあるわけです。ですから、規制を変えたり制度を変えたり、場合によっては法律を変えたり、そうしなければ国際的な競争に勝てない場合もあるということで、変えるべきものはしっかり変えていきたいと思いますということでありま

す。

○安達澄君 今、その制度、法律ということがありましたけれども、その制度という意味で、今日はそのダイバーシティについてちょっと深掘りをさせていただきたいと思っています。

一月二十日の安倍総理の演説で、女性活躍によって日本社会が一変するとか、女性活躍の旗を高く掲げるとか、女性リーダーの拡大に向けた取組を一層進めると発言されていました。女性活躍という表現は正直言うとちょっと私には余りしっくりこないというか、余り男性活躍とか言いませんから。ただ、その安倍総理のそういう決意に対しては非常に賛同するところであります。

そして、今回、コロナウイルスの対策でいろいろと御苦労されているかと思うんですけども、その中で、例えば一斉休校、余りに急な判断だったとは思いますが、もし仮に安倍総理の周りに、働きながら、そして仕事をしているそういう女性が男性と同じぐらいの数いたり、まあ仮にですけど、総理大臣が女性だったりするとまた違った判断とか対応、決断というものもあったのかなというふうに思っています。

私がサラリーマンのときに感じたことですが、やはりダークスーツに身をまとった男性ばかりの同質集団では、クリエイティブ、創造的な仕事といえますか自由闊達な議論といえますか、ちゃんと顧客を向いたそういった商品、

サービスがやっぱり生まれにくいというふうに思うんですね。

ちょっときつい言い方になりますけれども、同質集団には物が言えない空気とか上からの指示が絶対だと、そういった風土があったなと思うんですけれども、大臣御自身はそんな経験ってありますか。

○国務大臣（梶山弘志君） いろんな場面で女性で活躍している方ともお会いいたしますし、比率からいえばそれは男性の方が多いと思いますけれども、女性の方が活発に発言をされたり行動されているのを見ていますので、だんだん時代は変わってきているなと思います。

○安達澄君 そうですね、少しずつ変わりつつはあると思うんですけれども、同質集団ではなくて、目指すは、男性もいるし女性もいるし、もちろん障害者の方もいる、外国人もいる、大事なものはバランスだと思うんですね。先ほど申したデータで一人当たりのGDPが高い国というのは、やはりそういった男女の平等バランスのランキングも上位にあるわけです。

ダイバーシティーとか働き方改革、これを政策として経済産業省は掲げているわけですが、今東京証券取引所と共同で二〇一二年度から女性活躍に優れた上場企業をなでしこ銘柄として選定して発表しています。

つい先週三日、今年度の発表があって、梶山大臣はこのようにコメントをされています。今年度のなでしこ銘柄の選定に当たっては、女性取締役を複数登用し

ている企業をより高く評価しました、途中省略します。日本経済をより一層元気にしていくために、官民が一体となって取組の輪を広げてまいりたいと思えますとコメントされていますけれども、官民一体とありますけれども、この官というのはどこのことを指すのでしょうか。

○国務大臣（梶山弘志君） 官庁であります。

○安達澄君 まさに経済産業省も積極的に進める官の一つだというふうに思いますけれども。

梶山大臣は、財界トップの方々と堂々と真正面に向き合う立場におられます。率直な意見交換もできる特別な立場におられるわけですがけれども、その財界のスリートップ、経団連、日本商工会議所、そして経済同友会ですがけれども、その会長、副会長、役員とか理事の皆さん、幹部を合わせると、私が計算したところ八十六名なんですね。ただ、残念なのは、そのうち女性はたったの二名なんですね、二・三%。経団連とか日本商工会議所はゼロです。昨日も経団連の副会長人事がありましたけれども、これもやはりゼロでありました。

まさにザ・同質集団ということになるかと思うんですけれども、ざっくばらんにお聞きしますけれども、大臣はそういう財界トップの方々と御一緒になったときに、こういうダイバーシティーとか女性登用とか、そういう話題になることというのはあるのでしょうか。

○国務大臣（梶山弘志君） まあ、ありますよ。そして、役員の構成等については皆さん気を遣っています。その経団連の役員ということじゃなくて、個社の役員の構成については、やはり女性を入れていくということも必要ですし、また、それは会社の完成にもつながるということだというようなお話も聞いております。

○安達澄君 その前に、隗より始めよというところだと思うんですけども、経済産業省自体のその女性登用、ダイバーシティーの取組というのはいかがでしょうか。

○国務大臣（梶山弘志君） 年々女性の採用が増えております。ただ、以前は女性の採用非常に少なかったということで、やはりそのバランスで女性の幹部が少ないということがありますけれども、いずれ、分母が大きいですから、やはりこういった方々が半分ぐらい幹部になってくる比率というのはあるんじゃないかと思っております。

○安達澄君 そこを是非期待したいところですが、私が調べたところでは、現在六十七名の幹部に対して二名というふうに、三%ですね。

政府が経済界に要請しているのは、女性役員、管理職の二〇二〇年三〇%登用であります。ちょっと前にありました障害者雇用の水増し問題、これで国民から厳しくお叱りを受けたわけですが、人に言っておいて自分たちがやらな

いというのでは、国民や企業からはやっぱり納得されることはないと思います。

まずは御自分が、大臣、トップを務める経済産業省から行動する模範を示すということが必要かと思います。そして、せっかく優秀な、しかも志の高いスタッフの皆さんが、男性も女性もいらっしゃるわけですから、皆さんが本当に日本や国民のために仕事ができるように、同調圧力とかを感じることもなく、しっかりとしたやるべき仕事ができる、そういった環境づくりをつくっていただきたい。男女バランスの取れた人材活用、そして意思決定の場への女性の登用をお願いしたいというふうに思います。

隗より始める覚悟は、大臣、ございますか。

○国務大臣（梶山弘志君） 委員が今おっしゃったその指定職が二名、六十七名中ということですがけれども、課長とか室長クラスになると、これは一〇・二%あります。この人たちがしっかりとした仕事をやって、多分そういう指定職に上がってくるものだと思っておりますので、しっかりそういう方たちの仕事の阻害するようなものがなくなるように目配りをしてまいりたいと思っております。

○安達澄君 是非リーダーシップを発揮していただきたいと思います。梶山大臣を始め政府の皆さんが本気になれば、社会のムードは一気に変わると思います。

その分かりやすい事例を一つ申しますと、クールビズです。二〇〇五年にスタ

ートしましたけれども、当時サラリーマンだった私には衝撃的だったんですね。というのも、小泉総理大臣が、当時の、本当にかりゆし姿で登場してきて、そして閣僚の皆さんも半袖とかノーネクタイで会議に出席されていました。地球温暖化対策ということが当然あったわけですけども、本当にそういうことをするんだなど、時の小池環境大臣もやるなというふうに思ったことを覚えております。

そして、政府がやり出したら、そのすぐ後にあった、トヨタ自動車の新社長の就任会見があったんですけども、その場にもトヨタ自動車の新社長が何とノーネクタイで現れてきたんですね。我々からすると、オフィシャルな場にあのトヨタ自動車がという、これも本当に民間サラリーマンの私には非常にびっくりしたことを覚えております。

やはり、国や財界トップの方の影響というのはあると思います。物すごくインパクトがあると思います。我々日本人は、いい意味でも悪い意味でも上意下達的なところがあります。ですから、トップが本気だということが分かれば、それに従うわけですね。トップが本気じゃないんだったらそのクォータ制とか罰則規定という話にならざるを得ないんでしょうけれども、まずはトップの本気度だというふうに思っております。

私は、以前、企業でダイバーシティーに関する業務をしたことがあるんですけど

れども、やはりもうこの件に関してはボトムアップではなくトップのリーダーシップだと思いますので、是非お願いしたいと思います。

そして、今、企業のトップの方とか社会に影響のある方、よくこのSDGsのバッジを付けています。男女平等のジェンダー、多様性のダイバーシティー、包摂性のインクルージョン、SDGsの重要な構成要素だと思うんですけども、そのパフォーマンスとかやっている感とか言葉とかではなくて実際の行動を国民は見ていますので、是非よろしくお願いしたいというふうに思います。

昨年お亡くなりになられた中曽根総理大臣、随分前ですけれども、こんな言葉を、まあ御存じかとは思いますが、おっしゃっていました。政治は、美しいとか、きらりと光るとか、形容詞でやるのではなく、動詞でやるものだというふうにおっしゃっておいりました。もうまさに政治の出番、梶山大臣の出番だと思います。いま一度、企業に対して、そして自分の経済産業省のスタッフの皆さんに対しての覚悟、決意をお聞かせいただければと思います。

○国務大臣（梶山弘志君） これからの企業や社会というのは、やっぱりジェンダーギャップって余り感じないで生きていけるような時代にしなければならぬと思っていますし、優秀な方がしっかりと適材適所で働けるような状況をつくるということでは、経済産業省を始め各企業にもそういう雰囲気醸成のために努力をしていただきたいと思います。

ただ、先ほど申しましたように、採用が少ないというときがありましたので、それがだんだん上がってきて、今、何名か、指定職というのがありますけれども、大分増えてきています。そして、今まで男の職場だと言われたところにも女性がかかり進出をしています。そういった方々が今現場でいろいろ頑張っているの、いづれやはりそういう時代が来るのではないかなと思っておりますし、もうそうなるように努力をしております。

○安達澄君 期待しております。

そしてもう一つ、経済産業省は、そのダイバーシティーにも関連してきますけれども、働き方改革というものを進めていらっしゃいます。その働き方改革の中で、企業に対して、いろんなメニューがある中の一つにフリーランスの起用を推奨しているわけです。

今回のコロナウイルス対策で今フリーランスへの処遇の問題がいろいろ出てきておりますけれども、フリーランスの推奨をするのであれば、やはりそういったセーフティーネット等もちゃんと整備をする必要があるかと思えます。厚生労働省とも連携してしっかりと、大企業以上に本当に困っている人、助けを必要としている人に対する御対応をお願いしたいと思います。

それについて一言頂戴できればと思います。

○国務大臣（梶山弘志君） フリーランスと一言で言っても、いろんな業種にわ

たるし、いろんな勤務形態もあると思っております。個人事業主、税金でいえば確定申告をする人というのも個人事業主でフリーランスでありますけれども、企業に勤めていながら特別な職を持っている方、例えばファッション誌なんかでスタイリストであるとかヘアメイクをする方であるとか写真を撮る方であるとか、そういう方もフリーランスと言われている。そして、さらにまた、通訳とか個人でやはり観光業などで活躍をしている方もおいでになる。

こういった形でその人らを助けられるかということ、範疇、いろんな区別をしながら、こういった手を差し伸べられるかということも含めて今検討しているということで御理解をいただきたいと思っております。

○安達澄君 おっしゃるとおり、いろんな形態があると思っております。そのフリーランスの働き方を、そして企業に対しても推奨しているわけですから、是非その辺は厚生労働省等とも一緒になって真剣に考えていただきたいというふうに思います。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。